

令和6年度第3回島根県幼児教育推進協議会 議事概要

日時：令和6年10月10日（木）10：00～12：00

会場：サンラポーむらくも 興雲の間

出席者

- 委員：小山 優子 座長（公立大学法人島根県立大学人間文化学部 教授）
峯谷 玲子 委員（島根県国公立幼稚園・こども園長会 会長）
西谷 正文 委員（島根県私立幼稚園連合会 理事長）
塩満 恭子 委員（認定こども園神田保育園 園長）
今岡 篤子 委員（島根県幼児教育研究会 会長）
長岡 和志 委員（松江市保育所（園）保護者会連合会 会長）
持田 万規子 委員（松江市こども子育て部こども政策課 保育指導官）
重田 幸 委員（大田市健康福祉部子ども保育課 副主幹）
八束 政義 委員（島根県教育庁特別支援教育課 課長）
- 事務局：石橋 裕子（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 室長）
野島 博行（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 企画幹）
宮崎 次光（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事）
岩成 佳子（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事）
永島 千津子（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 幼児教育コーディネーター）
小笹 栞太（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 主事）
梶谷 美鈴（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 課長補佐）
渡邊 紀子（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主任）
山田 大翔（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主事）

1 開会

- ・挨拶（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 室長）
- ・資料確認
- ・事務連絡

2 議題

- (1) ヒアリング報告 資料1
- (2) 改訂の骨子に係る検討について 資料2
- (3) 幼児教育振興プログラム改訂に向けたスケジュール（変更）について

3 議事内容

議題（１）ヒアリング報告（資料１）事務局より説明 委員より意見・質問

（事務局 資料１について説明）

※内容は資料１を参照

※議事概要では資料１についての説明を省略

（委員 意見・質問）

・資料１（２）「第２章（円滑な幼小連携・接続のために大切なこと：３つの柱）」のうち、８つ目のポツ４行は、資料２ III1(3)「遊びこむ子ども」の説明に加えるべきだと思う。その説明をいれると、「遊びこむ子ども」についてよりイメージがわく。

（事務局 回答）

・意見を踏まえ、資料２ III1(3)「遊びこむ子ども」の部分で表現できればいいと思う。

議題（２）改訂の骨子に係る検討について（資料２）事務局より説明 委員より意見・質問

（事務局 資料２について説明）

※内容は資料２を参照

※議事概要では資料２についての説明を省略

（委員 意見・質問）

・資料２に「保育・教育」と「教育・保育」がそれぞれ出てくるが、統一した方がいい。

（事務局 回答）

・意見をふまえ、「保育・教育」としたい。

（委員 補足説明）

・資料２ III3(8)「幼小をつなぐ発達のめやす」のうち、「幼児教育から小学校教育で育みたい力」の図をもとにした資料が、資料２ 補足資料１「幼児教育から小学校教育の１２年間で身につけたい力」となる。これを、資料２ 補足資料２の「幼小をつなぐ発達のめやす一覧表」と一緒に載せていただきたい。また、資料２ III3(8)「幼児教育から小学校教育で育みたい力」の図と資料２ 補足資料１「幼児教育から小学校教育の１２年間で身につけたい力」は同じ図だが、それぞれ載せていただきたい。

・資料２ 補足資料１「幼児教育から小学校教育の１２年間で身につけたい力」は、領域のことや、幼児期の終わりに育ってほしい姿など、小学校側が幼小連携を考える際に参考にする資料。資料２ 補足資料２「幼小をつなぐ発達のめやす一覧表」は、幼児教育施設が０歳から６歳までの発達をどのように小学校につなげるか考えるときに、参考にする資料。それぞれ巻末に載せることで、どういう視点で教育を組み立てていけばいいか考える際にヒントになる。

（事務局 補足説明）

・資料２ 補足資料２の「幼小をつなぐ発達のめやす一覧表」は幼児教育施設だけではなく、小学校側もみていただきたい資料。

（委員 意見・質問）

・「幼児教育から小学校教育で育みたい力」と「幼小をつなぐ発達のためやす一覧表」をセツトで載せていただくと、読み手にはわかりやすい。場所は巻末でもどこでもよい。

(委員 意見・質問)

・「幼児教育から小学校教育で育みたい力」と「幼小をつなぐ発達のためやす一覧表」が一緒になっているとわかりやすい。

(委員 意見・質問)

・資料2 補足資料1「幼児教育から小学校教育の12年間で身につけたい力」は、小学校側にとって理解されにくい10の姿が整理されている。幼児教育施設側と小学校側のつながりがわかりやすく、実践の時に使いやすい。

(委員 意見・質問)

・資料2 補足資料1「幼児教育から小学校教育の12年間で身につけたい力」は、幼児教育施設側にとっても、育てている力が小学校にどうつながるか確認できる資料になっている。

(委員 意見・質問)

・(事例提供)

自園で小学校との交流活動を実施した。

保育者が小学校の授業に実際に参加することも実施してみた。様々なお互いの交流によって、子どもの具体的な姿を相互理解し、そのうえで、カリキュラムができていく。幼小が具体的に動いていくことが必要。

(委員 意見・質問)

・先の委員の事例など、資料2 V「小学校における取組」に載せるなどしたら、他の幼児教育施設と小学校は連携の参考になる。イメージがわかりやすい。

(事務局 回答)

・資料2 III3「こどもを中心につなぐしまねの幼小連携・接続」のところに、幼小交流活動の記述があるので、そこの関連を踏まえつつ、どこに事例を挙げると、一番伝わるか事務局として考えていきたい。

(委員 意見・質問)

・おさまりのいいところに入れていただきたい。

(委員 意見・質問)

・資料2 III2にめざす子ども像実現のための視点が挙げられており、その中に、「自分自身が守られているという実感を土台とした安定した情緒」とあるが、「守られている」という表記が引っかかる。「守られている」という表記では、子どもたちは守られないと育たないイメージを持たれかねない。今回、こどもが自ら育つということを大事にしているので、「自分自身が大切にされている」などの表現はどうか。

・プログラム改訂版では、島根らしさである地域との連携の部分がみえてこない。現行のプログラムでは入れておられたので、改訂版プログラムでも、保育または教育の部分に地域との関わりを入れられるとよい。子どもたちは地域から学ぶことがすごく多いし、地域の人たちにとっても子どもと繋がるのは大事なこと。県民にも広げる改訂版プログラムであれば、

なおさら、地域との連携の部分を入れてほしい。

(事務局 回答)

・資料2 IV(2)「環境を通して行う教育」と(3)「学びの循環」の間に入れるのも1つの方法。もっと、島根の保育・教育ということを県民に知ってもらうためには、資料2 III2(2)「発達の段階を踏まえた保育・教育」の後に、「地域に根差した保育・教育」のように入れると、読み手に伝わると思う。

(委員 意見・質問)

・資料2 III1「めざす子ども像」のところで島根らしさ、地域とのつながりについて軽く触れることで、地域とのつながりを大事にしながらプログラムを実践していくようなニュアンスがでるとよい。また、資料2 IV「幼児教育施設における取組の内容」V「小学校における取組の内容」に、地域との連携について取組を載せることで、実践のイメージになりやすいと思う。

(委員 意見・質問)

・架け橋期はどこからどこまでか。

・また、架け橋期のゴールはどこなのか。広く県民がみたときに、「こうなればいい」とイメージがわくような、それをどこで示しているか。

(委員 補足説明)

・幼児教育施設の年長から小学校1年生を架け橋期ととらえ、それぞれの担任を中心に交流や連携を行っていかうとする全国的な動きのこと。本当は2年生から6年生、年長児より下の子どももいるので、いろいろな交流ができると思うが、いきなりそこまではできない。まずは、交流やカリキュラムづくりで年長児から小学校1年生までのつながりを充実させていく方向性だが、そこまで至っていない。

・架け橋期だけで終わりではなく、小学校2年生以降にもつながっていることを、最後にきちんと書いておいた方がいいと思った。

(事務局 回答)

・資料2 III1(3)の「遊びこむ子ども」は、主体的・対話的で深い学びにつながる学びの姿が架け橋期だけではなく、それ以降の学校教育につながるという意味合いで書いていた。読み手にその意図がみえるように表現しなければならないと思った。

(事務局 意見)

・地域素材を生かしている事例や、幼児期の主体的な学びの姿の様子がわかる事例などを提供いただけると、委員の意見と齟齬が少なくなると思う。

(委員 意見・質問)

・島根には自然や歴史、文化などの素材が散らばっていて、幼小とも活用できる。

・自園では地域資源を使って小学校1年生との連携をすることで、たった1日の交流でも、その後の園での遊びの展開や小学校の深掘りにつながっている。

・そういった事例、県内でたくさん持っておられると思う。

(委員 意見・質問)

・資料 2 IV「幼児教育施設における取組の内容」V「小学校における取組の内容」に事例や写真などが載っていると、他の幼児教育施設や小学校が参考にしやすいと思う。

(委員 意見・質問)

・資料 2 III2「めざす子ども像実現のための視点」とIV「幼児教育施設における取組の内容」がリンクした方がよい。「こういう視点のためこういう取組」になるとつながるため、わかりやすい。

・資料 2 III2(1)「各発達段階にふさわしい生活の場」の中に「子どもの心に寄り添うこと」とあるが、漠然としているので、「よりそい自立につながる適切な援助」など、もう少し表現を変えた方がよい。同箇所の「他者とのかかわり」も「かかわりを促す援助」に変えるなど表現を少し加えた方がよい。

・資料 2 IV(3)「学びの循環」が挙げられているが、III2「めざす子ども像実現のための視点」にはその部分が挙げられていないので、視点と取組がリンクしていない。

・資料 2 III2(2)「発達の段階を踏まえた教育・保育」の中に「幼児教育において育まれたことが円滑に接続される、生活科を中心とした指導の工夫」とあるが、いきなり小学校サイドのことが書かれている。

(事務局 回答)

・資料 2 III2(2)「発達の段階を踏まえた教育・保育」は、学校教育の教育も含まれている。したがって、視点も幼児教育及び小学校教育にも共通するもの。幼児教育だけではなく、共通するということを強調して書いていきたい。

(委員 意見・質問)

・資料 2 III2(1)「各発達段階にふさわしい生活の場」について、教師サイドで書いているのか、子どもサイドで書いているのかわからない。書き方を工夫するとよいと思う。

・資料 2 III2(2)「発達の段階を踏まえた教育・保育」は、III2(3)の「一人一人の子どもの実態に応じた保育・教育」にも関係するようなニュアンスを感じる文言なので、言葉の整理が必要

・資料 2 III3(8)「幼小をつなぐ発達のめやす」のなかに挙げられている i) 主として「生活していく力」について、他とのバランスを考えたときに、もう少し膨らむとよい。

(事務局 回答)

・指摘のとおり、膨らませて書きたい。

(委員 意見・質問)

・資料 2 III3「子どもを中心につなぐしまねの幼小連携・接続」とあるが、骨子案の項目をみると「しまね」の要素がなく、全国的に言われていることが見受けられる。そうであれば、ここでは、「しまね」を外して、他のところで入れ込むべきでは。

(事務局 回答)

・ご指摘の部分の骨子案は、カリキュラム開発に特化してしまっているが、事務局としては、しまねらしさを出していきたい。カリキュラムイメージに特化せず、幼小の接続をするうえで必要な交流・対話のあり方を、紹介できたらいいと思っている。

(委員 意見・質問)

・カリキュラムの部分を書くとなると、しまねらしさを入れるのは難しい。別に章立てして展開するのもよいと思う。

(事務局 回答)

・幼小連携・接続は、地域や小学校との対話を含めた交流などを大事にしていくことが、しまねらしさにつながると思う。カリキュラムを参考として、別章立ての方向で検討していきたい。

(委員 意見・質問)

・幼児期の原則や小学校の架け橋期のこと、特別支援のことなどが、資料2 II「円滑な幼小連携・接続の推進のために大切にしたい2つの柱」～IV「幼児教育施設における取組の内容」のところで分散して載っているの、読み手にわかりやすいよう固めたほうがよい。

(委員 意見・質問)

・資料2 IV「幼児教育施設における取組の内容」で、その前に出てきた視点の部分がまた出てくるので、視点の話なのか、取組の話なのか混乱した。わかりやすくしていただきたい。

(委員 意見・質問)

・資料2 III3(5)②「園所・校・行政が連携して進める架け橋期のカリキュラム・・・【参考】～開発のフェーズ」のカリキュラムの開発イメージについて、伝わるか懸念がある。

(事務局 回答)

・カリキュラムの開発イメージは詳しく書く予定。イメージしやすいように執筆していく予定

(委員 意見・質問)

・(事務局の回答をふまえて)カリキュラムの部分は、別の章立てにした方がいい。別の章立ての方が特に大事なところがわかりやすい。

議題(3) 幼児教育振興プログラム改訂に向けたスケジュール(変更)について

事務局より説明

- ・今後のスケジュールについて、資料1 2(3)「今後のスケジュール」のとおり説明。
- ・次回の第4回協議会では、第3回協議会の意見を踏まえた骨子案を提示する予定。
- ・完成に向けて、全てをチェックすることは困難なため、事務局が提示した部分に意見をいただく。

4 閉会

- ・お礼の挨拶(島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 室長)